

【特選】

戸籍課に生き長らえている化石

大相撲の野球賭博事件を取り上げた応募作品が最も多く、入選句も随つて多数になつたが、その代表として採つた。内容・形式ともに間然するところが無い風格ある作品。

田口 立吉

刑場の公開をする暑さ除け

謹慎場所となつた名古屋の土俵は、呼び出しも地味な無地の紋付で、あの華やかな染め抜きの衣装の見られないことが、逆に目に付くという、裏側からの風景を描写。

鈴木 寿子

百歳を過ぎた頃から尋ね人

サッカーW杯南ア大会の特徴の一つが、かの奇妙な楽器を世界中に知らしめたことだろう。期間中のべつその音を聞きながら、眠れない熱帯夜を幾夜過ごしたことが。

柳谷 春爺

院内でアシネトバクター諳んずる

「暗がりて手刀」という言い方がいかにも巧みであるが、現実には野球賭博を申し出た力士たちのあたまに、外の社会が想像するほど「暗がり」の意識があつたかどうか。

島崎

足のない年金を喰ううそ寒さ

大相撲の伝統と黒い社会との結びつきは古くからあつた。この時代になつても、近代化が遅れている相撲社会には、なお断ち切れない糸のシツポが残っているのだろう。

塩見 佳代

本号のメインテーマは、大相撲の野球賭博事件、サッカー世界選手権南アフリカ大会、それと入れ替わるように行なわれた参議院議員選挙と民主党の大敗、という3大事件で、それ以外はすべてが霞んでしまつた。

随時締め切りというのは、あとに大きな事件が起こると、先行句が踏み消されてしまうという欠点がある。しかし、きちんとした句は、時期的に色は褪せても記録のために採つて置くのを、建前としている。決して無駄ダメにはならない。

今回のようにテーマが絞られるというのはむしろ特殊に属するが、それがまた時事というものだろう。

5年、10年経つて振り返ると、その時代の特色がすぐわかる——そういう欄に育てていきたいと思ふ。

カネのない強い味方があった菅十両がエレベーターで幕の内牛丼を見下ろしているたばこ代年金の死角で鬼籍生き延びる検察の虚構に巢食う振付師仏壇を土俵に遺し逝く初代両国に齒切れの悪い触れ太鼓下馬評に蓋をしている不肖の身ペイオフへ金融相の初仕事政治にも多剤耐性菌蠢く止まらない円高小語かない炎暑敬老の日へ戸籍課も待機する英霊は65年で見放され丸腰に千人針を着けていく西南の役思わせる菅小沢最後つ屁みたいに放つ刑の指示草の根を分けて見つける110歳保護法の介護を受ける江戸生まれ白骨になっても脛は齧られる

島崎 肇
同
同
島崎 穂花
同
同
塩見 佳代
同
鈴木 寿子
山口 早苗
同
小野崎帆平
同
小林寿寿夢
同
小田 由美
川村 雄一
吉川 一男

稽古場が鉄火場だった相撲部屋
沖繩の床擦れに泣く民主党
空席に貧乏神の名古屋場所
アメリカへ普天間を売る首ひとつ
変動の風に揺れ出す人民元
新党へはぐれ浪人志士気取り
遅れ馳せながら民主の衣更え
心技体染みついている「ごつつあん」
消しゴムを用意しながらマニフェスト
タレントとスポーツマンの顔並ぶ
出直そう相撲甚句と土俵入り
油田爆発これパンドラの箱ですか
サッカー戦テレビの前のブーイング
ぼた餅を美味しく食べる子沢山
重箱の隅からつつく総理の座
甘塩で土俵清める名古屋場所
無駄削減やはり議員が無駄だろう
デパートは中国人に占拠され
ご破算で撒き餌の元利嵩上げす

田口 立吉
河口 世詞
二宮 茂男
尾藤 一泉
吉川 一男
渡辺 好文
小林寿寿夢
川村 雄一
味野和一柳
岸野たかまさ
徳島 一郎
三浦 哲夫
齋木美佐緒
小田 由美
久保 昭二
川辺 大柳
ヴォイス
池田クジラ
佐藤 ヒサ

現在、マスコミに真の「時事川柳」はありません。伝統ある時事川柳が方向を失い、路頭に迷う前に、いかなる聖域も持たない、限りなく自由な時事風刺川柳を、本欄で再び募集いたします。奮って自信作をお寄せください。

投稿規定は、メール（件名は「目」と記載）またはハガキ一枚に一句、枚数に制限はありません。締切随時。尾藤三柳責任選 年度賞（時事大賞）の対象になります。投句専用メール senryu-koron@doctor-senryu.com